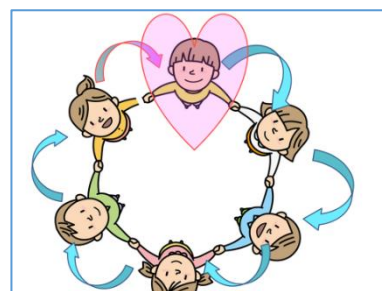
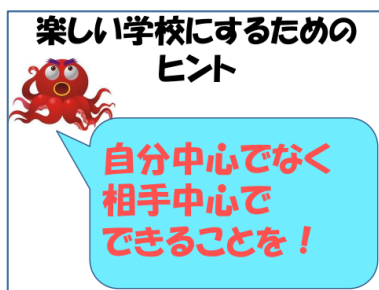


「ペイ・フォワード」



- ◆3学期が始まりしばらくして、校長室に右のような書初め作品が届きました。フラワー学級の5年生の男の子からでした。「たこ(他己)中人」とありました。おそらく今年の目標で、「こんな人になりたい」との願いを書いたのでしょう。
- ◆うれしかったのは、始業式や開級式、お迎え集会などで「他己中」の話を全校にしたことを覚えてくれていたことでした。この言葉は29年度卒業生が在校生に残していった言葉のうちの一つで、色紙に書いて来客用玄関にも飾っています。
- ◆先月の便りで書いたように、シャンパンタワーの法則では、まず自分に幸せを注ぎますが、その後は必ず次の人にも贈ります。自分中心ばかりで終始することを「自己中」などと言いますが、相手の人、隣の人のも幸せも考えることが「他己中」です。折に触れ、子どもたちには、それが「みんなが楽しい学校」にすることにつながるんだよと右図のようなスライドを見せつつ説明しています。



- ◆ベースは「ペイ・フォワード 可能の王国」というアメリカ映画です。20年ほど前の映画ですが、DVDなど何回か観る機会があって私の印象に残っている映画です。あまり恵まれない家庭の中学1年生の主人公は、社会の授業でケヴィン・スペイシー演じる先生から「もし自分の手で世界を変えたいと思ったら、何をするか?」という課題を出されます。彼が思いついたのは、受けた好意を別の人に渡す「ペイ・フォワード」というものでした。少しずつ実現しつつあるころ、悲しく衝撃的な事件が起こりますが、最終的には、感動的な結末を迎えます。

◆主人公が考えた「ペイ・フォワード」とは、次のようなことです。

ひとりの人が3人に何か善いことをします。善いことをされた3人が、またひとりひとり他の3人に善いことをします。3人が9人に、9人が27人に、27人が81人に、81人が243人に…どんどん増えていって「善意の連鎖」が起きてきます。その結果、世界がよりよく変わるというアイデアです。

- ◆日本の昔話の鶴のように「恩」を、施してくれた人に返すのが「恩返し」です。一方、「ペイ・フォワード」は、その「恩」を次の誰かへ渡していくことです。「ペイ・フォワード」は映画では「次へ渡せ」と訳されています。
- ◆冬休み前の終業式で私が出した宿題の「ありさん(ありがとうと言ってもらえることを毎日3回しましょう)」と話したことさえも、「ぼく、～してお母さんに言ってもらった」「～したらお姉ちゃんが言ってくれた」と報告にくる子どもたち。話したことを覚えていて実行できることが素晴らしい。「他己中」の話も、一人一人の蓄積が連鎖となって、きっと現れてくるにちがいないと期待しています。<学校長>